

こども家庭科学研究費補助金

成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

F-SOAIP を用いた特別な支援の必要な保護者対応の記録システム

令和3～令和5年度 総合研究報告書

研究代表者 上田敏丈

令和6年（2024年） 3月

目次

- I. 総括研究報告
 - F-SOAIP を用いた特別な支援の必要な保護者対応の記録システム ----- 1
- II. 資料
 - 1. COVAP システムリーフレット
- III. 研究成果の刊行に関する一覧表

こども家庭科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
総合括研究報告書

F-SOAIP を用いた特別な支援の必要な保護者対応の記録システム

研究代表者 上田敏丈
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授

研究要旨

本研究は、保育所において、特別な支援や配慮の必要な保護者への対応を保育士が行う上で、①どのような支援プロセスによって適切な子育て環境構築が可能となったのか、②保育所内での他保育士及び他職種間と保護者に関する情報共有のツール開発、③ ①②の知見を踏まえて、F-SOAIP による保護者対応の記録の蓄積と活用の実態調査という目的を検討した。

令和3（2021）年度では、①保育士と保護者との子育て支援関係の先行研究のレビューを行い、②保育士がどのような支援を行うことで、適切な子育て環境構築が可能となったか、そのプロセスをインタビュー調査から明らかにするとともに、③保護者側が感じる園への相談内容やしやすさ、不安などをアンケート調査から明らかにした。また、④F-SOAIP を保育の記録に用いる際の有用性を検討し、⑤F-SOAIP の記録システム（パイロット版）を作成した。その結果、保育士及び保護者へのアンケート調査から概ね両者の相談については、適切な関係性が構築されており、80%以上の保護者が丁寧な対応に満足していることである。しかしながら、一部のケースについて、相談しにくいことや相談しても問題が解決していなかった。そのために、配慮や支援の必要な保護者への支援プロセスとして、初期・中期・後期という3期によって、異なる対応が必要となることが示唆された。今後、園内での情報共有が必要である。アンケート調査から、このような事例に対しても、記録をとっていなかったり、とっていても、十分に活用していないことが明らかになった。

令和4（2022）年度では、①諸外国における子育て支援関係の先行研究のレビューを行い、②特別な支援や配慮の必要な保護者に対して、保育士と連携しながら支援を行う他職種連携者がどのような支援を行っているのか、そのプロセスをインタビュー調査から明らかにするとともに、③保育士が実際にどのようなケースで支援を行っているのか、困難さを感じた事例について、アンケート調査から明らかにした。また、④昨年度、作成したF-SOAIP の記録システムについての使用感についての評価を得た。その結果、①については、デンマーク、アメリカ、フィンランドの子育て支援の制度の特徴を明らかにした。②については、利用者支援専門員に対するインタビュー調査から、外部の連携機関につないでいくことで地域による支援プロセスを明らかにした。③については、F-SOAIP に基

づく記録の有効性として、プロセスの整理がなされること、情報の共有が図られることが明らかになった。

令和5(2023)年度では、①専門家が保育士への相談において求められることの検討をおこない、②実際のF-SOAIP記録システムに基づく使用の課題と意義について園長へのインタビューから明らかにし、③記録システムの改善と公表、周知するためのホームページの公開とリーフレットの作成をおこなった。

その結果、①については、こどもが実感をもって行動しているところに目を向ける志向性及びそれを保育士とともに共有することが重要であること、②については、外部連携の重要性とともにコスト等の課題、それに代替するシステム的な相談機能の必要性が明らかになった。③については、複数の利用者インタビューから、活用に戸惑う箇所の洗い出しをおこない、また今後さらに必要とされる機能についての意見を徴収した。

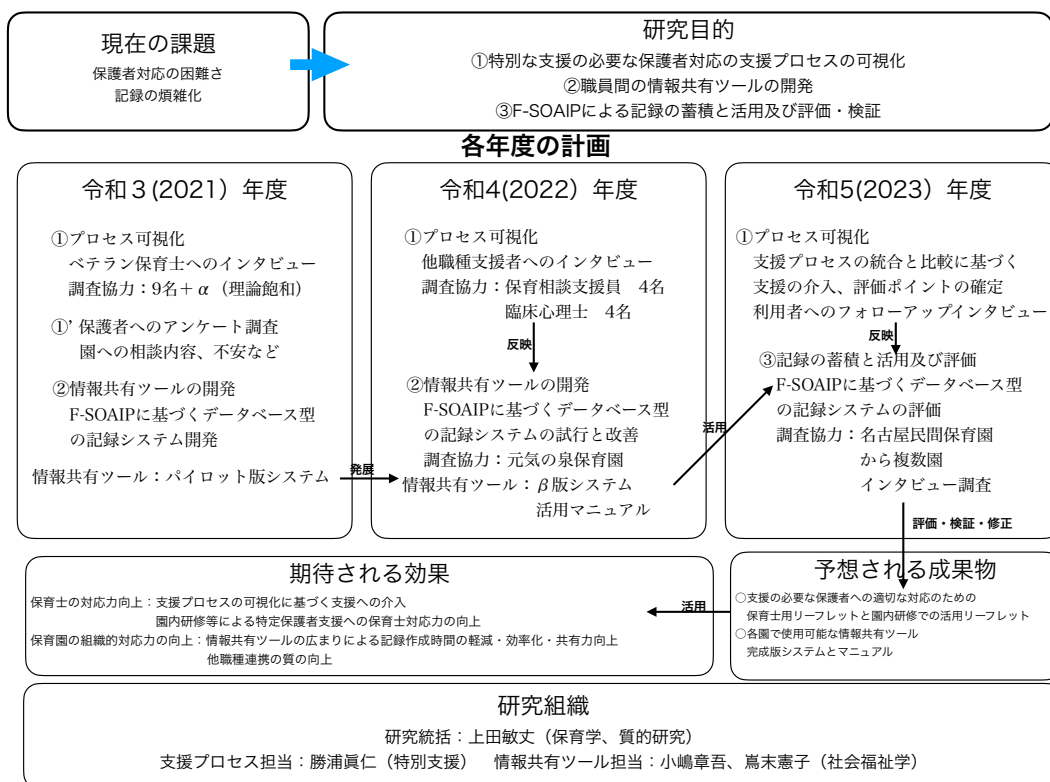


図1 本研究の調査概要と年度の計画

<p>研究分担者</p> <p>同志社女子大学 現代社会学部 准教授 勝浦眞仁</p> <p>国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授 小嶋章吾</p> <p>埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授 鳶末憲子</p> <p>研究協力者</p> <p>大倉山元気の泉保育園 園長 中村聖子</p>

A.研究目的

本研究の目的は、保育所において、特に配慮や支援の必要な保護者への対応を保育士が行う上で、どのような支援体制の構築が可能となるのかを明らかにすることである。

保護者への支援について、保育士の役割が大きくなことはこれまでも重要視されてきている一方、でそれに対する保育士の困難感については、これまでの先行研究においても報告されてきた（岸本・武藤 2019 など）。保護者にどのように接すればよいのか、どうすれば過不足なく支援できるのかということは保育士の大きな関心事項であり、関連する書籍も多数出版されている（例えば、西館・徳田 2014 など）。そして、このような困難さが保育士としての離職につながっていることも想定されよう。

従って、配慮や支援の必要な保護者に対して、どのように保育士が対応し、支援プロセスを構築しているのか、また課題はどこにあり、どのような組織的体制の構築が可能であるのかを明らかにすることが喫緊の課題である。

本研究は、保育所において、特に特別な支

援・配慮の必要な保護者への対応を保育士が行う上で、①どのような支援プロセスによって適切な子育て環境構築が可能となったのか、②保育所内での他保育士及び他職種間と保護者に関する情報共有のツール開発、③ ①②の知見を踏まえて、F-SOAIIP による保護者対応の記録の蓄積と活用の実態調査という目的を検討した。

B.研究方法

本研究を行うにあたり、インタビュー・アンケート調査については、研究者間で項目の精選・確認を行い、筆頭著者の所属する大学において、倫理審査委員会の承認を得ている。また、実際に調査を行う際には、配布先の所属機関との事前協議の上、内諾を頂き、拒否・無回答しても何の不利益もないことを確認した上で、依頼を行った。インタビュー調査については、事前に研究内容の説明を行い、書面にて同意を得た。

個別の研究協力者の概要については、分担報告書等に記載されている。

C.研究結果

(1)支援プロセスの明確化

本研究目的にあわせて、以下の7つの成果が明らかになった。

1) 保護者支援における保育士の抱える困難感フェーズ (R3)

保育士と保護者との関係性の変容という観点から、保育士の困難感のフェーズを明らかにした。その結果、関係構築期、関係葛藤期、関係困難期という3つのフェーズにおける保育士の困難感の仮説モデルを提唱した。各フェーズにおいて生きる保育士の専門性として、「コミュニケーション」、「相互理解」と「子どもの最善の利益」「ソーシ

「ワーク」をそれぞれ挙げたが、十分に発揮できていない状況がありうることを述べた。また、保護者との関係性によらないものの、「保育システム」および「社会背景」という保育士の困難感を生じさせる要因についても指摘した。

2) 諸外国における子育て支援の実態 (R4)

保護者支援における保育士の抱える困難感を文献研究からモデル化することを試みた勝浦ら(2021)を踏まえて、特徴的な取り組みをしている国の子育て支援について文献研究から検討した。その結果、デンマーク、アメリカ、フィンランドの3カ国を取り上げ、子育て支援の特徴を明らかにした。

3カ国に共通しているのは、保護者が子どもの保育に携わる一員であるという意識が強くあること、保育士が保護者をクライアントとして捉えるのではなく(中島, 2014)、保護者と保育士とが「子どもの最善の利益」のために、共にその育ちを支える人として、パートナーシップを結ぶことを大切にしていることであった。むろん、日本の保育も連携を重視してきているが、保育に保護者の参画が位置付けられているとは言い難い。子育てに携わる枠組みの中で、保育士、保健師などと対等に、保護者もその一員として子どもの育ちについての対話を重ねていくという構造がもとめられる。

3) 保育士のおこなう保護者支援の関係構築プロセス (R3)

保育士へのアンケート調査及びインタビュー調査を通して、配慮の必要な保護者への支援プロセスを可視化することで、支援に必要な特徴を明確にした。その結果、保育士の対応の課題、長期化にすること、消極的な解決に繋がるということが明らかになった。また、そのプロセスをTEMを用いて可視化した。

アンケート調査は、2022年2月～2022年4月まで実施された。協力者は、206名である。インタビュー調査は、2022年2月～

2022年4月で実施され、協力者は9名である。

アンケート調査の結果から、

(1)保護者の養育態度に課題がある場合と、保護者との何らかのやりとりの中で、保育士の対応や伝え方に問題があること

(2)それが原因となり、保護者とのこじれた関係性が長期化し話し合い回数も増えること

(3)関係性が解決にいたるには長期に渡ること解決したと感じた場合でも時間の経過による消極的な解決の場合が多く、解決に至らないことも2割程度あること

という3点が明らかとなった。また、それらを踏まえたインタビュー調査からは、保護者と保育士の齟齬が認識のずれを生み出し、それが長期化するプロセスが明らかになった。

配慮や支援の必要な保護者への保護者支援は、多くの保育士にとって長いキャリアの中での数少ない事例である。しかしながら、そのような場合で困難さを感じるような状況となった場合、対応の長期化や保育士への高いストレスが見込まれ、負担となる。このような長期化・高ストレス化させないためには、初期段階における丁寧な対応、中期段階における組織的対応、後期段階における外部連携対応といったものが必要となる。

4) 保護者が感じる保育士への相談 (R3)

保育所を利用する保護者が、保育士に対して相談を行う際の満足度についてアンケート調査を実施した。協力者は、117名である。結果、保護者の保育士への相談については、おおむね保育所や保育士が適切に対応

しており、80%以上が相談しやすく、その問題が解決されている、と感じていることが明らかになった。しかしながら、相談しにくいと感じたり、相談した内容が解消されていないと感じている人が、1-2割いた。

5) 配慮の必要な保護者への子育て支援—自由記述の分析から (R4)

保育士に対するアンケート調査のうち、自由記述の部分から、具体的な事例と支援の取り組み、課題について明らかにする。アンケート調査は、A 県の保育士に対して実施をし、209名から回答を得た。その結果、困難さを感じた事例として、①子どもに由来する困難感、②保護者に由来する困難感、③保育士自身に由来する困難感、④文化や組織に由来する困難感に分類された。

保育士が保護者支援において感じる困難感の背景は多様であり、単独での解決は難しく組織的な対応が求められる。特に保護者に由来する困難感については、行政等からの介入などの支援も必要であることが示唆された。

6) 利用者支援専門員による子育て支援プロセス (R4)

困難感を抱える保育士に対して支援を行う利用者支援専門員から、どのような支援を行っているのか、またどのような視点で有効性を感じているのか、その課題を明らかにした。その結果、大きくは相談期、対応期、支援期という3つの期にわかれることがしめされた。

相談期においては、利用者支援を行う中での中心業務が相談であること、またその中で持ち込まれる相談は保育園とのずれが生じていた状態から始まるが多かった。そのため、2期の対応期では、保護者と園のずれを読み取りながら、イメージを持つように関わったり、園との調整を行うことがあるが行政的対応が中心となるため、課題

を感じている。最終的には、外部の連携機関につないでいくことで地域による支援となるようにしていた。一方でそうならないケースも多く、どう機関を超えて情報共有を行うかが課題であった。

7) 保育相談支援員による子育て支援プロセス (R5)

保育相談をしている方と関係発達論的観点から巡回相談をしている筆者らとが語り合った内容を検討することを通して、巡回相談をする上で専門家間にどのような観点があるのかを明らかにした。結果として、子どもに目を向けていく志向性及び課題の解決に囚われすぎず、子どもが今の状況をどのように理解して、その持てる力の中でどのように動こうとしているのかを保育士や保護者と共有していくことが、2人の語りの共通項として浮かびあがった。

(2)情報共有ツールの開発

本研究では、以下の3つの成果が明らかになった。

1) F-SOAIP の保育記録への援用可能性 (R3)

本研究により、保育の記録に F-SOAIP を援用する有用性として、①項目による書きやすさ・教えやすさ、②実践の変化につながる「保育の循環的な過程」の意識化保育の循環的な過程のやりやすさ、③意図や願いを共有するという記録の意義の再認識の3点が明らかになった。

2) F-SOAIP を用いた情報共有ツールの開発 (パイロット版) (R3)

本記録システムの開発を行うに際して、①F-SOAIP の項目に基づき簡便に記録が入力できること、②安全性が担保できている

こと、③園ごとで活用ができること、④クラス単位・個人単位での視認性を高くすること、を前提として、システム開発を行った。

3) F-SOAIP を用いた情報共有ツールの開発と周知 (R5)

これまでに作成した F-SOAIP 記録システムについて、使用状況と改善点を、使用頻度の高い園長からフィードバックを得るとともに、改善されたシステムについて、報告するものである。また、同時に、研究背景や目的、使用の方法などについて、周知することを目的としたホームページ及びリーフレットを作成した。

(3)記録の蓄積と活用及び評価

本研究では、以下、2つの成果が得られた。

1) F-SOAIP を用いた記録システムの評価について (R4)

配慮や支援の必要な保護者の情報を共有するツール(パイロット版)について実際に使用した園長の聞き取り調査からその評価とさらなる展開の可能性を明らかにした。本システムのパイロット版を約6ヶ月使用してもらい、フィードバックを得た。保育園の園長には2022年10月に、インタビュー調査を行った。その結果、F-SOAIPに基づく記録の有効性として、プロセスの整理がなされること、情報の共有が図られることが明らかになった。また、さらに、本システムを用いることで、F-SOAIPのFのみを抽出し、長期的な記録とできること、また、外部の関係者からコメントを得ることで、F-SOAIP記録を媒介とした簡易なカンファレンスができる可能性が明らかになった。

2) F-SOAIP 記録による保育者の意識変

容 (R5)

本研究では、項目形式の記録法の一つである F-SOAIP を、保育所における保育記録へ援用したことによる、保育者の意識の変容を明らかにする。約1年間、F-SOAIP を用いて保育記録を書いてきた保育者12名にインタビューを行い、インタビュー・データをうへの式質的分析法を用いて分析した。その結果、①保育者個人の記録の連続性「流れ」への意識の変容、②保育者間の記録の連続性「つながり」への意識の変容、③大切なことの実感と再認識によるダブルループ学習への変容、という保育者の意識の変容が見出された。

F-SOAIP を使って記録を継続する中で、保育者は保育記録を書く際に、F-SOAIP の項目を用いて自分なりの「流れ」を意識するようになっていた。例えばS(子どものことば)→F(活動のテーマ・ねらい)→I(支援・対応)→O(子どもの姿)→A(気づき・考え)→P(計画)といった「流れ」を意識することにより、保育者個人レベルでの循環的な保育の過程を負担なく実行できるようになっていた。また、複数の保育者が保育記録を共有する際に、F-SOAIP の項目を用いて、保育の連続性を途切れさせないようにすることを「つながり」として意識するようになっていた。そのことが、保育者の思いや保育の意図をつないでいくためには記録を共有することだけでなく、保育者同士の対話が必要であるという再認識を導いていた。さらに、記録を書いたり読んだりする際に、個々の項目の内容に着目するようになっていたことが明らかになった。

E.結論

以上のことから、F-SOAIP 記録システムが、特別な配慮を必要とする保護者だけでなく、それらの幼児の記録に対しても有効に機能していることが示された。

また、それら項目別に入力するシステムの有効性と展開の可能性が示された。本知見を活用していくことで、F-SOAIP に基づく記録記入法が広がり、情報共有の敷居を下げる事が期待される。

引用文献

岸本美紀・武藤久枝 (2019) 保育者が保護者支援で抱える困難感の内容と構造—先行研究の分析結果から—。岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要 52, 39–46.

西館有沙・徳田克己 (2014) 配慮の必要な保護者への支援。Gakken.

三山岳 (2013) 障害児保育における巡回相談の歴史と今後の課題。京都橘大学研究紀要 39 巻, 135-156.

F.健康危険情報

該当なし

G.研究発表

1. 論文発表

1) 勝浦 眞仁・上田 敏丈 (2021). 保護者支援における保育士の抱える困難感のフェーズを探る-保育士による保護者支援のための文献研究。桜花学園大学保育学部研究紀要, 24, 35-50.

Retrieved from <https://cir.nii.ac.jp/crid/1050573243253766144>.

2) 中村 聖子・上田 敏丈 (2021). 保育の記録における F-SOAIP 援用の有用性の検討. 質的心理学研究, 20(Special), S22-S28.

https://doi.org/10.24525/jaqp.20.Special_S22.

3) 保育士が困難感を感じる保護者支援の実態と課題 —アンケート調査の自由記述に着目して—

4) 上田 敏丈; 加藤 将希; 清水 千里; 瀬古 杏南; タントン ナターシャ; 出口 志穂; ジョウ エイ; ヨウ ギョウトウ 人間文化研究 39 13-26 2023 年 01 月

5) 勝浦眞仁; 上田敏丈 諸外国における子育て支援の実態を探る。桜花学園大学保育学部研究紀要 26 61 -72 2022 年 11 月

6) 勝浦眞仁, 藤井真樹, 上田敏丈 2024 専門家が巡回相談において求められる観点の検討—語り合いを通して— 総合文化研究所紀要 41 印刷中

7) 中村聖子 2023 保育記録への F-SOAIP 援用による保育者の意識の変容. 国際幼児教育研究 30 67-81

8) 畷末憲子・小嶋章吾 2024 DX 次代の重層的支援体制整備上にて PDCA サイクルを促進する F-SOAIP~EBPM をめざして(4) 自治実務セミナー4月 40-46.

2. 学会発表

1) F-SOAIP に基づく保育記録システムの活用

上田敏丈; 中村聖子

日本社会福祉マネジメント学会第 03 回研究大会 2022 年 11 月 ポスター発表

2) 保育士が困難感を感じる保護者支援の実態と課題ーアンケート調査の自由記述に着目してー

上田敏丈; 加藤将希; 出口志穂; 清水千里; 瀬古杏南; タントン ナターシャ; ジョウエイ・ヨウ ギョウトウ

第 18 回日本子ども学会学術集会 2022 年 10 月 ポスター発表

3) 配慮の必要な保護者に対する保育士の支援プロセス

上田敏丈

TEA と質的探究学会第 1 回大会 2022 年 10 月 ポスター発表

4) 保育所における 配慮の必要な保護者への子育て支援ー保育士へのアンケート調査からー

上田敏丈; 勝浦真仁; 中村聖子

日本教育心理学会第 64 回総会 2022 年 08 月 ポスター発表

5) 上田敏丈 配慮の必要な保護者への保護者支援ー利用者支援専門員インタビューからー TEA と質的探究学会第 2 回大会 2023 年 6 月 11 日

6) 上田敏丈, 中村聖子 F-SOAIP による保育記録システムの開発と活用, 日本福祉マネジメント学会第 4 回研究大会 2023 年 11 月 10 日

7) 勝浦真仁, 上田敏丈 保育園への巡回相

談記録における F-SOAIP の活用と課題(1)ー衝動性のある幼児に対する配慮に着目してー, 日本教育心理学会第 65 回(2023 年)総会 2023 年 8 月 10 日

H.知的財産権の出願・登録状況

該当なし

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
勝浦 眞仁・藤井真樹・上田 敏丈	専門家が巡回相談において求められる観点の検討 ー語り合いを通してー	総合文化研究所紀要	41	印刷中	2023
中村聖子	保育記録へのF-SOAIP活用による保育者の意識の変容	国際幼児教育研究	30	67-81	2023
畠末憲子・小嶋章吾	DX次代の重層的支援体制整備上にてPDCAサイクルを促進するF-SOAIP～EBPMをめざして (4)	自治実務セミナー	4月号	40-46	2024
勝浦 眞仁・上田 敏丈	諸外国における子育て支援の実態を探る	桜花学園大学保育学部研究紀要	26	61-72	2022
上田 敏丈ほか	保育士が困難感を感じる保護者支援の実態と課題ーアンケート調査の自由記述に着目してー	人間文化研究	39	13-26	2022
勝浦 眞仁・上田 敏丈		桜花学園大学保育学部研究紀要	26	61-72	2022
上田 敏丈ほか		質的心理学研究	20	S22-28	2021



保育園で活用できる 保護者対応のための記録システム COVAPについて

はじめに

本冊子は、主に下記の3つで構成されています。



1. 研究概要

本研究の背景、目的など概要を説明しています。



2. F-SOAIP記録

簡単で短時間に書けるF-SOAIP記録の紹介です。



3. Covapシステム

記録のデータベースの紹介とその活用についてです。

研究メンバー

代表 上田敏丈
小嶋章吾

名古屋市立大学
国際医療福祉大学

勝浦眞仁
嵐末憲子

同志社女子大学
埼玉県立大学

協力 中村聖子

大倉山元気の泉保育園

園と保護者のよりよい関係をめざして

本研究は、保育所や幼稚園において、様々な保護者（特に支援や配慮の必要な方）へ保育者が対応していく上で活用できるシステムの構築を目指しています。保育者にとって、保護者支援は重要である一方、どのように支援をしていくべきか、また、保護者支援が各保育者に任せられるだけではなく、園全体で情報を共有するためには、どのような記録を用いるべきでしょうか。このような現場の先生達に役立つツールをつくりたいと思っています。まだまだ、改良すべき点はあるかと思いますが、

- ①保育者の行う保護者支援について
- ①記録の方法であるF-SOAIIPについて
- ③記録システムCovapについて

という3点について解説します。

目次

1. 保育者の行う保護者支援について

1-1. 保育者の行う保護者・子育て支援について

1-2. 保護者支援の難しさ

1-3. 保護者支援における保育士の抱える困難感

1-4. 保育士の抱える困難感

アンケート調査から

1-5. 保育士の抱える困難感

インタビュー調査から

1-6. ワン・ケース・クライシス

2. F-SOAIP記録について

2-1. F-SOAIPとは

2-2. F-SOAIPを持ちいた記録の書き方

2-3. F-SOAIP記録の実例

2-4. F-SOAIP記録のメリット

2-5. より簡単に、早く、情報を

共有するために

3. 記録システムCovapについて

3-1. 記録システムCovapとは

3-2. 記録システムCovapの使い方

3-3. F-SOAIP記録を活用して

3-4. 外部とのゆるやかなつながりのために-相談機能

4. 研究成果一覧

5. 関連リンク

1-1. 保育者の行う保護者・子育て支援について

保育所保育指針の第1章総則（2017）には、「保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである」とあります。

また、第4章には、子育て支援として、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保育士は保護者の気持ちを受け止めながら、相談・助言等を行うことや、保護者と連携して子どもの育ちを支える視点が保育者に求められています。



**保育者にカウンセリング的・ソーシャルワーカー的
役割が求められています。**



1-2. 保護者支援の難しさ

一方で、保護者支援の難しさが様々な研究から明らかにされています。

- 保護者支援の困難さは多様な要因（保育者、保護者、子どもなど）で生じている
- 保育者の経験年数に関係なく困難さを感じている
- 経験年数の違いによって、困難さの内容が変わってきている

以上のことから、私たちは保育士の抱える困難感を関係性の視点から分類しました。



保育者の行う保護者支援の難しさを関係性の変容という観点から分析しました。次のページをご覧ください。

1-3. 保護者支援における保育士の抱える困難感

以下の図は、私たちの分析による図です（勝浦・上田 2020）。



保育者と保護者の初期関係構築において、コミュニケーション不足やすれ違いから肯定的関係ができなくなると、関係困難となることが多い。

* 但し、本研究は文献研究であるため、肯定的な関係に向かう変容が十分に描かれてない。この点は、次の調査を参照ください。

1-4. 保育士の抱える困難感—アンケート調査から

このような保護者との関係構築において、保育士はどのような困難感を感じているかについて、アンケート調査を行いました。

2022年に行った調査（回答者302名）では、困難さを感じる事例を分類したところ、

(1)保護者の養育態度

(2)自身の伝え方や対応

が、大きな要因となって、困難感に繋がっていることが明らかになりました。

保護者の様々な養育態度に対して、どのように保育士自身が考えていることを伝えていくのが、困難感を解消することに繋がると考えられます。

表2 困難さを感じる事例の要因

事例の要因	度数	割合(%)
子どもの問題	29	6.50
養育態度	99	22.20
自己中保護者	38	8.52
要求強保護者	35	7.85
保護者の問題	72	16.14
保護者同士の関係	14	3.14
保育士の問題	25	5.61
伝え方・対応	98	21.97
園内の要因	5	1.12
その他	31	6.95
合計	446	100.00

また、このような困難感を抱える事例がどの程度の期間で解決したか、話し合いの回数、解決となった要因について尋ねました。その結果、1年以上の事例が約36%、話し合い回数も10回以上にわたるものが約25%あった。

困難感の解消の要因と、期間との残差分析を行ったところ、話し合いでは、1ヶ月以内の解決が有意に高いことが明らかになりました。

また、解消の要因と話し合い回数でも、1-3回目の解決が有意に高いことが明らかになりました。

変数	2-8解決原因						
	出現値	話し合い	卒園・転園	時間	行政介入	カウンセラー介	弁護士介入
2-6解決期間	その日	△ 14	▼ 0	0	0	0	1
	一週間以内	△ 24	▼ 0	5	2	0	0
	一ヶ月以内	△ 26	▼ 2	5	2	0	▼ 0
	三ヶ月以内	4	1	△ 5	1	0	2
	半年以内	9	10	6	1	△ 3	5
	1年以上	▼ 7	△ 17	10	5	1	3
	継続	▼ 6	3	4	5	0	3
	その他	▼ 2	△ 16	5	3	0	△ 6

これらのことから、初期対応で解決に至らなければ、長期化・未解決化することが示唆され、保護者支援において、初期の対応が重要であると言えます。

変数	2-7話し合い回数					
	出現値	1-3回	4-6回	7-10回	10回以上	その他
2-8解決原因	話し合い	△ 56	20	6	▼ 7	▼ 4
	卒園・転園	▼ 11	5	3	△ 19	11
	時間	14	9	4	5	7
	行政介入	6	1	0	△ 10	2
	カウンセラー介	0	0	△ 3	1	0
	弁護士介入	4	4	0	8	4
	その他	▼ 4	3	3	8	△ 12

1-5. 保育士の抱える困難感—インタビュー調査から

さらに、複数の保育士に、保護者支援における困難感についてインタビュー調査を行いました。

インタビュー調査からも、保護者との関係における「ボタンの掛け違い」による「認識のずれ」が、長期化することが示されています。

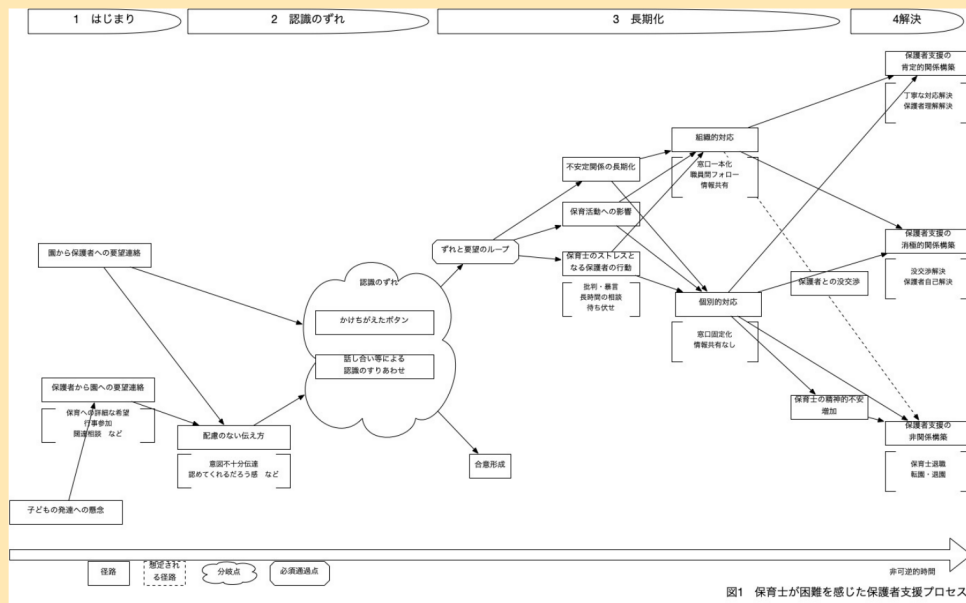


図1 保育士が困難を感じた保護者支援プロセス

1-6. ワン・ケース・クライシス

アンケート調査と、インタビューの調査から、多くの保育士は保護者と良好な関係を築き日々の保育を行っていることが明らかになりました。しかし、一方で、保育士キャリアの中で、ストレスを強く感じる、1回の出来事を経験することで、離職したくなったり、実際に辞めることにつながっているようです。

このような1回の困難感を感じる事例を経験することが離職につながることを、「ワン・ケース・クライシス」と呼んでいます。

保育士がワン・ケース・クライシスで離職することないよう、園の組織的な取り組みはもとより、外部との連携も必要になるでしょう。そのためには、情報を共有しやすい記録の書き方が有益なと考えています。



2. F-SOAIPを用いた記録について

一簡単で、短時間に、ポイントを押さえた記録を書く

簡単で、短時間に、ポイントを押さえた記録を書くために、本研究で採用したのが、F-SOAIPという考え方です。これは、医療・福祉領域において、活用実績のある項目形式の経過記録法の一つであり、本研究グループの小嶋先生・嵩末先生によって提唱され、広く活用されています。この方法を保育領域においても展開しています。



書籍

医療・福祉の質が高まる 生活支援記録法
[F-SOAIP]: 多職種の実践を可視化する新しい経過記録

ホームページ
F-SOAIP

<https://seikatsu.care>

医療・介護・福祉・保育・心理・教育・司法のための経過記録法
Model Process Recording Method for Health Care, Social Care and Human Care
SOAIP[エフソ・アイピー] 生活支援記録法[F-SOAIP]実践・教育研究所/Institute of F-SOAIP

トップページ F-SOAIP 概要 LIFE 研修情報 公開論文 F-SOAIP アプシード F-SOAIP 研修 Q&A アーカイブ 研究代表者 メッセージ

対人支援専門職の実践過程を可視化する

Visualization of Care Professional Practice Process by F-SOAIP

生活支援記録法 (F-SOAIP) とは、多職種協働による
ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、
生活モデルの観点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、
F-SOAIPの項目で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生む
リフレクティブな経過記録の方法です。(定義 Ver.4: 2019年11月)

2-1. F-SOAIPとは

F-SOAIPとは、医療・福祉領域において活用実績のある項目形式の経過記録法の一つで、「多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活モデルの観点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、F-SOAIPの項目で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生むリフレクティブな経過記録の方法(Ver.4, 2019年11月)」（嵩末・小嶋, 2020, p.16)と定義されます。

F-SOAIPは以下の項目で構成されています。

- **F**：Focus（着眼点）ニーズ、気がかり等。タイトルのようにその場面を簡潔に表現します。
- **S**：Subjective Data（主観的情報）利用者（キーパーソンを含む）の言葉です。
- **O**：Objective Data（客観的情報）観察・状態や他職種から得られた情報、環境・経過等を表しています。
- **A**：Assessment（アセスメント）援助者（記録者本人）の判断・解釈など、気づきや考えです。
- **I**：Intervention/ Implementation（介入・実施）援助者（記録者本人）の対応。支援、声かけ、連絡調整です。
- **P**：Plan（計画）当面の対応予定です。

2-2. F-SOAIP記録の書き方

このようなF-SOAIPによる記録の書き方は、保育所における自己評価ガイドラインともマッチしています。



例えば、「『誰が』という主語が分かるように書く**([S][O][I]を書き分ける)**」「特に印象的だった子どもの発言**([S])**はそのまま書き留める」「事実**([O])**と自分の理解や考察**([A])**が混同しないように明確に書き分ける**([O]と[A]を書き分ける)**」といったことを意識して書くことで、その記録を後で他の職員と共有したり自分で読み返したりする際に、読み手が内容や書き手の視点**([F])**を理解しやすくなります。

厚生労働省（2020）保育所における自己評価ガイドラインより
太字は、筆者らが加筆

2-3. F-SOAIP記録の実例

実際に、F-SOAIPを用いて書かれた記録の例です。最初は項目に戸惑うかもしれませんが、慣れると、すぐにどの項目かがわかるようになるでしょう。



右表は、中村（2020）より抜粋

表2 保育記録の例

① F-SOAIP 援後の月案の例：0歳児3月

[ねらい] [F] 保育者や友だちと一緒に新しい環境に慣れ、進級に備える。
保育者の見守りの中、安心して活動や友だちとの関わりを楽しむ。
(中略)

【自己評価・反省】

[A] 普段より1歳児保育室で遊ぶ機会が多いこともあったためか、[O] 大きく不安がることなく慣れていくことができた。[P] 今後、慣れ親しんだ玩具を配置するなど、安心して過ごせる環境になるようにしたい。また、[O] 友だちと関わり遊ぶ姿がよく見られた。[O] アリ探しでは場所を譲り合いながら一緒に観察し、姿が見えると指さして教えるなど、[A] 一緒に遊ぶことを楽しんでいるように感じる。[I] 関わりあっている場面では共感の言葉をかけるなど、さまざまな気持ちに気づけるようになってきた。[P] 引き続き子どもたちの気持ちを代弁するような声かけを行い、人と関わり合うことの楽しさを感じられるようにしていきたい。

② F-SOAIP 援前の誕生会の記録の例：4歳児12月3週目

〈誕生会〉○誕生児へのインタビュー内容を子どもたちが決め、質問する。
●誕生児への関心が持てるように、インタビュー前にクイズをすることを伝える。
○インタビュー後、質問に対して誕生児が答えたことをクイズにする。
○答えが合っていると、全身で喜びを表現していた。

③ F-SOAIP 援後の誕生会の記録の例：4歳児2月2週目

[F] 誕生会
[O] 誕生児に冠、メダル、本をプレゼントする
[A] 誕生児が特別感を味わえるようにするため、誕生児にプレゼントを渡してほしい人を指名してもらう
[O] 誕生児が自己紹介する
[I] 名前を聞く歌を皆で歌うように促す
[A] 誕生児に注目できるようにするため、[O] 誕生児への質問コーナーをする
[S] (子1)「好きな電車はなんですか」
(誕生児)「・・・」
(保)「好きな電車の色でもいいよ」
[A] 誕生児が困っている姿がみられたため、質問内容を変更した
[A] 誕生児への興味をもち、知れるようにするため、[I] いくつか質問した後、誕生児クイズをした

2-4. F-SOAIP記録を用いるメリット

このようなF-SOAIPを用いた記録を書くことでどのようなメリットがあるでしょうか。右の図が実際の保育士の声をまとめたものです。特徴として、

- 1.項目による書きやすさ・教えやすさ
- 2.実践の変化につながる「保育の循環的な過程」の意識化
- 3.意図や願いを共有するという記録の意義の再認識

があげられます。

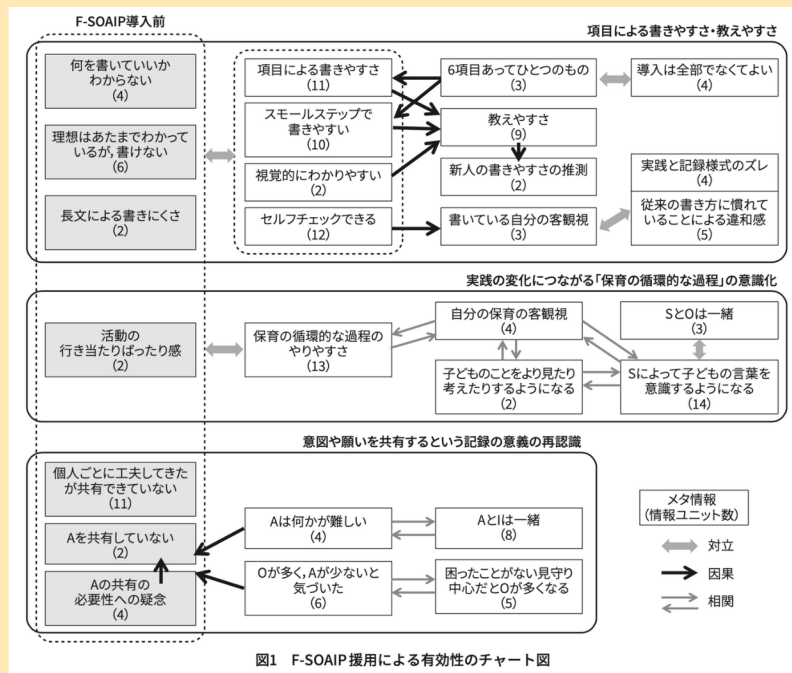


図1 F-SOAIP援用による有効性のチャート図

上図は、中村 (2020) より抜粋

2-5.より簡単に、早く、情報を共有するために

近年、保育園や幼稚園で記録の重要性が高まる一方、数多くの記録を書く必要にせまられており、それが保育者の負担となっています。また、記録のための記録になったり、手書きであればその不便さもあるでしょう。

子ども理解を深めていくための記録であれば、エピソードなどで書くことも必要になりますが、簡単に、早く、情報を共有することのできるF-SOAIPを用いた記録は、業務の効率と情報共有に有効であると思います。

次に、F-SOAIP記録を書くためのシステムについて説明します。

3. 記録システムCOVAPについて

F-SOAIPによって記録を書くことは、手書きやワード、エクセルを用いても十分に可能なものです。ですが、F-SOAIPの項目を手早く入力するできなかったり、園内で共有することの難しさもあるかと思います。

そこで、私たちは、F-SOAIP記録に特化した記録システムを作成しました。

F-SOAIP項目を用いること、また、任意の記録を特定の相手（行政や臨床心理士など）に簡単に送信することができるようになっています。

本記録システムを Connect of Various Another Professional の頭文字をとってCOVAPと呼んでいます。



←COVAPシステムはこちら
のQRコードから



3-1. 記録システムCOVAPの紹介

COVAPは、webベースの記録データベースです。
下は、記録の詳細ページです。



記録の基本属性です

Fの項目が入ります

ここで項目を選びます

F-SOAIP 相談 記録 圏 クラス 圏児 ユーザー 上田敏文

記録詳細

園名	クラス名	園児名	記入者	投稿日
名古屋市立大学 人文社会学部	心理教育学科	OK	上田敏文	2022/06/17

[F]: Focus (着眼点) ニーズ、気かり等

[F]: Focus(着眼点) ニーズ、気かり等、タイトルのようにその場面に整潔に表示する。
[S]: Subjective Data(主観的情報) 利用者(キーパーソンを含む)の言葉。
[O]: Objective Data(客観的情報) 観察・状態や他職種から得られた情報、環境・経過等。
[A]: Assessment(アセスメント)援助者(記録者本人)の判断・解釈、気づきや考え。
[I]: Intervention/Implementation(介入・実施)援助者(記録者本人)の対応、支援、声かけ、連絡調整。
[P]: Plan(計画) 当面の対応予定。

[SOAIP]: 自己評価・反省

[S]: Subjective Data (主観的情報) 利用者 (キーパーソンを含む) の言葉。 追加

- 6月21日の学科会議で協議
- 本人、転校先、先ゼミの希望がそろったので、学科会議の議決事項とする。
- 本人、周本さん(園中川先生のゼミ生)とお電話でお話しました。心理学のゼミで中論を出すメンタドは何かと聞かれましたので、一応私からは心理の方への大学院進学をお考えなら、心理学の中論を書いている方が、心理学をちゃんとやってきたという証明にもなるので、有りではないかとお伝えしました。ご本人として
- 6月13日、周本さん、古賀先生と電話面談、了解をえる。

それぞれの記録の文章が入ります。

3-2. 記録システムCOVAPの使い方

COVAPは直感的に使いえるように設計されています。以下の順で使用してください。

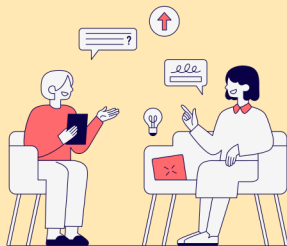
- ① システム管理者の登録：園の管理者が最初に登録を行います。
- ② ユーザー登録：園の管理者が園で使用するユーザーを登録します。
- ③ 記録システムの活用
- ④ 必要に応じて、相談機能の活用

となります。詳しくはCOVAPのホームページのマニュアルをご覧ください。

3-3. F-SOAIP記録システムを活用して

COVAPを実際に使用した園の感想について、下記に動画を掲載しております。
自園での活用の参考にしてください。

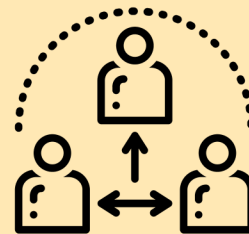
① 保護者の記録について



② 保育記録について



③ 第三者評価による活用



←こちらのQRからお願いします。

3-4. 外部とのゆるやかなつながりのために一相談機能について

本研究を進めていくうえで、保育者が困難感を感じた際に必要なことは、行政や臨床心理士、様々な領域の有識者といった**外部との連携**でした。しかし、外部と連携するためには、その事例についてのプロセスを説明することが求められます。F-SOAIIPをもちいた記録はそのような場合にも、活用することができます。

また、COVAPの中で、登録した外部の専門家（臨床心理士など）にWeb上で相談することが可能となっています。園と連携している外部の専門家がいる場合は、登録の上、こちらの機能もぜひ活用してください。



研究成果一覧

[論文]

中村聖子 2023 保育記録へのF-SOAIP援用による保育者の意識の変容. 国際幼児教育研究 30 67-81

上田 敏丈, 加藤 将希, 清水 千里, 瀬古杏南, タントン ナターシャ, 出口 志穂, ジョウ エイ, ヨウ ギョウトウ 2023
保育士が困難感を感じる保護者支援の実態と課題 – アンケート調査の自由記述に着目して – 人間文化研究 39 13-26.

勝浦眞仁, 上田敏丈 2022 諸外国における子育て支援の実態を探る 桜花学園大学保育学部研究紀要 26 61-72

中村聖子, 上田敏丈 2021 保育の記録におけるF-SOAIP 援用の有用性の検討 . 質的心理学研究 20(Special) S22-S28

勝浦眞仁, 上田敏丈 2021 保護者支援における保育士の抱える困難感のフェーズを探る
—保育士による保護者支援のための文献研究— 桜花学園大学保育学部研究紀要 24 35-50

[研究発表]

上田敏丈, 中村聖子 F-SOAIPに基づく保育記録システムの開発と活用
日本社会福祉マネジメント学会第04回研究大会 2023年11月10日

勝浦眞仁, 上田敏丈 保育園への巡回相談記録におけるF-SOAIPの活用と課題（1）—衝動性のある幼児に対する配慮に着目して—
日本教育心理学会第65回総会 2022年8月10日

上田敏丈 配慮の必要な保護者への保護者支援—利用者支援専門員インタビューから
TEAと質的探究学会第2回大会 2023年6月11日

上田敏丈, 中村聖子 F-SOAIPに基づく保育記録システムの活用
日本社会福祉マネジメント学会第03回研究大会 2022年11月4日

上田敏丈, 加藤将希, 出口志穂, 清水千里, 瀬古杏南, タントン ナターシャ, ジョウ エイ・ヨウ ギョウトウ
保育士が困難感を感じる保護者支援の実態と課題—アンケート調査の自由記述に着目して—
第18回日本子ども学会学術集会 2022年10月8日

上田敏丈 配慮の必要な保護者に対する保育士の支援プロセス
TEAと質的探究学会第1回大会 2022年10月1日

上田敏丈, 勝浦眞仁, 中村聖子
保育所における 配慮の必要な保護者への子育て支援—保育士へのアンケート調査から—
日本教育心理学会第64回総会 2022年8月10日

本冊子は、厚生労働科学研究費補助金「F-SOAIPを用いた特別な支援の必要な保護者対応の記録システムの開発（21AA1001）」（研究代表 上田敏丈）の研究成果として発表するものです。

発行 2024年3月31日